

『研究会の目的』

農林水産省は、消費者の「食」に対する信頼を高めることを目的にF C P（フード・コミュニケーション・プロジェクト）のプラットフォームにおいて食品事業者が利用できる各種ツールを作成してきた。

一方、各食品事業者において世代交代が進んでいる中、食品安全等に関する理解を深め、同時に食品事故等へのリスクマネジメントや危機管理に対処し、食品業界全体に対する消費者の信頼のさらなる向上を継続させるため、食品事業者が食品安全をそれぞれの企業文化として醸成していくことの必要性が指摘されている。また、近年C o d e x 食品衛生の一般原則で食品安全文化に関する言及や、食品安全認証規格に求められる要件を定義したG F S I ベンチマーク要求事項に食品安全文化に関する項目が追加されるなど、国内外の取引においても食品安全文化の醸成やその評価方法に関心が高まっています。

これらを踏まえ、F C Pにおいて、「食品安全への考え方・行動に影響を及ぼし、組織内で共有された価値観・信念・規範」を可視化するツールを作成し、食品事業者が食品安全について求める姿を企業文化とするための研究の場として、「食品安全文化の可視化に関する研究会」（以下「研究会」という。）を開催した。

『研究会の成果』

農林水産省のF C Pにおいて、23法人24名が参加し、「食品安全文化の可視化に関する研究会」を開催した。研究会では、食品安全文化に関する先進的な取り組みや知見を有する6社から優良事例の報告や意見交換、中小事業者でも利用しやすい食品安全文化を可視化するツールの開発、および開発したツールの実用性評価が行われた。

主な成果として、食品安全に対する作業員・従業員の意識や行動を把握するためのアンケートを作成した。食品の安全を支えているのは、現場の作業員・従業員一人ひとりであり、日々の取り組みの積み重ねによって職場の食品安全文化が醸成される。

食品安全文化を可視化するツールの開発にあたっては、食品安全に対する作業員・従業員の意識や行動を分析し、その結果をアンケートに反映させた。アンケートは、6つのカテゴリー、37の設問で構成されており、現場の作業員・従業員一人ひとりの意識や行動を把握し、職場の強みや改善点を客観的に評価できるように設計した。

開発した食品安全文化を可視化するツールは実用性を評価するため、実際の食品事業者を対象とした検証が行われたが、アンケート結果の妥当性の検証までは至らなかった。

そのため、次年度も食品安全文化の可視化に関する研究会を引き続き行い、アンケートの妥当性の検証と議論を行い、中小事業者でもより使いやすいツールとなるよう改定を行うとともにツールの利用促進に努めることとした。

最後に、このアンケートを通じて、各企業の強みや改善点を客観的に把握し、食品

安全文化の醸成に向けた取組に役立てていただきたい。